

令和4年度 学校自己評価表(報告)

学校運営計画		
学校運営方針	意欲的に自分の夢を育み、その実現に向け確かな学力を身に付けさせ、国際的な視野も備えて、社会に貢献できる人間の育成を目指す。	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
(成果) ①国公立大学の合格延べ数は67名(実合格者数61名※前年+10名)であった。1年次から重点強化科目を設定して学習に取り組み、最後まで受験科目を絞らせることなく、3年間を計画的に指導した成果であるとする。 ②特別支援教育体制がより充実し、支援を要する生徒に対して、全職員で組織的に対応できた。 ③部活動においては、コロナ禍であるにもかかわらず、生徒ができる範囲でよく活動していた。	計画的な進路探究を通して、進路目標の明確化を図る。	①3年間を見通した進路探究活動と高い志の育成。 ②「総合的な探究の時間」による論理的思考力・判断力・表現力の確立。
(課題) ①学力の向上 基礎学力の定着を図る。特進クラスの特色化を図る。大学入学共通テストの得点率60%以上の生徒数の増加を図る。 ②目的意識・意欲の形成 3年間を見通した目標を立てさせ、意欲を醸成させる。 ③人格の完成 生活習慣の形成、社会事象に対する興味関心の育成、徳育の重視。	進路目標達成のため、学力の向上を図る。	①学習習慣の形成。 ②基本事項の精査と反復学習の徹底。 ③わかりやすい授業、考えさせる授業、双方向性のある授業の実践。電子黒板をはじめとするICT機器を活用した授業の展開。 ④社会に対する興味関心の育成。
	・挨拶の励行を基盤に基本的な生活習慣を確立する。 ・部活動・学校行事への主体的な取り組みを通して、健全な精神と粘り強い精神を育成する。	①挨拶の徹底を図る。 ②交通マナーを遵守させる。 ③健康維持と体力の増進を図る。
	・保護者・地域に向けて情報提供を積極的に行う。 ・地域社会との交流を通して生徒の社会性を培う。	①秋陵会総会、親師会総会や進路講演会、学年懇談会等のあり方を工夫する。 ②ホームページや会報の充実を図り、学校の教育活動を積極的にPRする。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
教務	授業時間を有効に用いて、確かな学力をつける。	授業時数の確保。	十分な授業時数を確保できる行事計画を作成する。 行事予定や日々の日程・時程をわかりやすく提示し、計画的に行動できるようにする。 授業変更を促し、自習時間を削減する。	A	A
	様々な変革に対処する。	教育課程の変更、校務システムの導入を適切に行う。	振替コマ、観点別評価の導入をスムーズに行う。 校務支援システムによって校務処理の合理化を行う。	A	
	正確な事務処理を行う。	外部への文書・報告の記載ミスをなくす。	各係の責任と協力(チェック)体制を明確にする。	B	
	生徒の自主性を育むため、生徒会係で助言等をし、活動の活性化に努める。	生徒の企画・立案を尊重しつつも、適切な助言を行う。生徒会の活動内容について、丁寧に発信する。	無断での早退・外出を防止するために必ず届けを提出させる。また、時間厳守の指導を行い、けじめある生活をさせる。 各学期はじめに2週間の登校指導を実施し、服装の指導を中心に、挨拶の励行を行う。 1・2学期に学校付近の主要3ヶ所で約2週間の通学指導を行い、バイク・自転車の乗車マナーを指導する。 バイク通学に対して、交通安全講話と2回のバイク講習会を実施する。	B	
生徒会指導	各種行事の充実を図り、それぞれの生徒が主体的に参加できるよう指導する。部活動への主体的な取り組みを通して健全な精神を育成する。	執行部と係職員との連携を緊密にし、生徒全員が積極的に関わられるよう、各種行事を工夫する。4月の部活動紹介や壮行会等を通じて、文武両道を学校全体で支えられるような雰囲気醸成を図る。	生徒会新聞を発行し、生徒会活動について生徒に広報活動を行い、行事等の活性化に努める。体育祭や秋陵祭等の行事について地域への案内も積極的に行う。	A	A
	生徒各自が自主的に健康を保持増進する能力と態度を養う。メンタルヘルスに関する情報発信と支援を行う。	健康診断の目的を正しく理解し、積極的に受ける態度を養う。 生徒自身が自分のメンタルの状況について正しく把握し、問題を一人で抱え込むことなく、適切な支援を積極的に受けようとする姿勢を養う。	定期健康診断で健康状態を把握させ、事後処理を行う。 日々の健康観察を行い、それに即した保健指導を実施する。 多面的に情報を集め、保健だより等を通じて、積極的に情報発信を行う。スクールカウンセラー、学年と連携して予防的かつ迅速に支援を行う。	A	
保健環境	学習環境の整備改善に努める。	毎日の清掃指導を徹底させる。自主的に清掃に取り組む態度を養う。	清掃点検を常時行い、平常清掃の徹底を図る。また、大清掃及び屋外大清掃を実施し、校舎内外の美化整備に努める。	A	A
	非常時の適切な対応。	災害発生時における避難を安全かつ迅速に行えるようにする。 運動部員および職員が、緊急時にAEDを使用した緊急対応ができる。	避難訓練を実施し、生徒の安全誘導と人命尊重の精神を養う。 救急法講習会を実施し、職員の積極的な参加を呼びかける。(5月:AED実習、熱中症対策など)	B	
進路指導	生徒に進路志望を明確にさせ、それを現役で実現できるようにする。	進路の情報を適切に発信し、授業を第一として生徒が主体的かつ能動的な学習をできる環境を作る。また、学年・教科で課題を洗い出すとともに、アンケート等の結果もふまえ、次の指導計画に反映させる。 PDCAで進路業務を可視化し、生徒へ継続した組織的な指導を行う。	①生徒面談や保護者面談で生徒・保護者の希望を明確化し、必要な情報を適宜提供する。 ②各教科が弱点分野の克服ができるよう、模試結果の分析から、重点指導項目を明らかにする。 ③進路たよりを年6回程度発行する。	B	B
	探究活動を通じて、生徒に次代の社会を創る観点を持った資質や能力を身につけさせる。	3年生で国公立大合格者を80名以上、難関大合格者を10名以上にさせる。 また、現役で志望校に合格できるようにする。	①国公立大志望者について、全国を視野に入れ検討させる。 ②全職員で役割を分担し、個別指導を行う。	B	
		生徒が「型」(考え方の技法)を習得し、答えのない問いに挑める姿勢を身につけ、自己実現に繋げる。	①探究活動において、「研究の流れ」を体験させる。 ②研究結果を論文やレポートにまとめ上げ、発表させる。 ③発表会で他者の研究結果に触れさせる。	A	
	地域と連携したPTA活動を活性化させる。	PTA活動への積極的な参加を促す	早い時期から総会の案内を出し、多くの参加を促す。 学年別懇談会の会場を自動車を利用して来れるような会場で開催するとともに、駐車場へのスムーズな誘導ができるようにする。	A	
渉外情報	教育活動の情報の発信	ホームページを利用して学校の教育活動に関する情報を積極的に発信する。	行事毎に、できるだけその様子をホームページに掲載する。	B	A
	図書館活動の充実	購入図書の見直しや図書館の整備、広報・レファレンスの充実等により、各種利用を促進する	図書館だより等を活用して情報を発信し、利用を促進する。	A	
	創立100周年記念事業実行委員会の充実	創立100周年記念事業実行委員会の活動を活発に行い、同窓会、親師会、校内との連携を取り合い、記念事業に向け準備を進める。	同窓会、親師会、校内と連携を密にするとともに、他校の記念事業を参考にし、本校の実態に合わせ、各分野の仕事内容を明確にし、活動を活発に行えるようにする。	A	

1 学 年	主体的な学習習慣の確立および論理的に考え、判断し、表現する力の育成	主体的な学習の習慣を確立し、3年間の基礎となる学力をつけるとともに将来の進路意識を育成する。 生徒自らが課題を設定し、論理的に考え、判断し、表現する力を育成する。	面談を通じて、学習習慣、教科ごとの学習方法、将来の進路についてなど、具体的に指導・助言する。 各教科の授業・総合的な探究の時間・LHR・学校行事等、学校においてのすべての活動を通じて、論理的に考え、判断し、表現する力を育成する。	B	A
	基本的な生活習慣の確立と文武両道の促進	挨拶、身だしなみのマナー、スマートフォンの適正な使用、時間や提出締切の厳守など、基本的な生活習慣の確立を目指す。 部活動への加入を促し、学習と部活動の両立を目標として精神的・身体的な成長を図る。	挨拶の励行、定期的な身だしなみの指導、スマートフォン使用上の指導などを行う。また、時間や締切の意義を理解させ、厳守させる。 時間を守ったきびきびとした部活動をするによって、学習と部活動の両立を実現させる。	A	
	生徒理解および生徒面談の充実	生徒との面談等を通じて、生徒の悩みや困難に対して共感や理解を図ることで、充実した学校生活を送れるように支援する。	個別面談を充実させることで、生徒の悩みや困難を把握し、生徒への共感や理解を深める。また、職員間で情報を共有し、組織的に対応する。	A	
	各教科の知識・技能習得と論理的思考力の向上	各教科・科目の学習内容を十分に理解し意欲的に学習活動に取り組ませる。得た情報や自らの考えを明確に説明できるようにする。	・面談を通じ個別に学習習慣について指導助言を行う。 ・「予習・授業・復習」サイクルを徹底させる。 ・授業やHR・新聞スクラップリレー等の活動を通じ、自己の考えを深め、論理的に表現する力を育成する。	A	
2 学 年	自己管理能力の向上	基本的な生活習慣の確立	・出席状況、日頃の生徒観察、生徒とのコミュニケーションから、問題を察知したら素早く職員間で情報を共有し組織的に対応する。	A	A
	協働性、行動力の向上	学習と諸行事諸活動に主体的に取り組む態度と、仲間の立場や意見を尊重し協力して課題解決する態度を育成する。	・生徒会活動や部活動、修学旅行などの学校行事、探究活動に積極的に取り組み、認め合い高めあう人間関係を築かせる。	A	
	自己実現の展望を描き、自ら学びに向かう人間性を育む	学びたいことや、大学卒業後社会でどのように活躍したいかを考え、具体的な志望校を考えさせる。 課題解決や目標達成に向けた行動を実践する力の育成	・進路探究活動や総合的な探究の時間、面談等を通して目標を設定し、努力を継続する態度を育てる。 ・自らの進路実現に向け、学校内外の諸活動に積極的に参加するなど、主体的に行動することを奨励する。目標への実行、到達度評価させる。	A	
	自己実現へ向けて本校での学びを生かし、進路目標を達成させる	社会的・職業的自立に向け、自己表現力を高め、他者と協働できる態度を養う 学力や将来の職業観を向上させ、また進路目標実現に向けた意志決定と、計画立案、実行などに正しい努力ができるよう支援する 目標達成後の自分の姿を考えて行動する力を養う。	最上級生として体育祭全体の成功に取り組みせ、思考力や判断力、自己表現力の向上などの成長を図る。またその後は受験に向けての切り替えを指導する。 自分の適性や学力等をきちんと把握し、学力向上に努力させる。 進路実現に求められる学力など諸能力の育成のため、面談などにより計画立案、実行、検証、修正、実行を繰り返させる。 上記のために、情報提供や自らの収集を通じて、多様な入試制度を踏まえた計画を立てるよう指導する。 具体的な進路目標を設定し、進路実現に向けて努力する。	B A A A	
国 語	基礎学力の定着・向上	・進研模試の偏差値50以上の生徒50%以上を目指す。 ・各種小テストを計画的に実施し、共通テストに向けて基礎力をつける。	現代文分野・古典分野の2つの小テスト実施日が重ならないように設定し、効率的な予習・復習を促す。 小テストの合格基準(70~80%)に達しない生徒について、個別指導を行うことによって基礎学力の重要性を理解させ、実践力の養成につなげる。	B	B
	大学進学に向けた実践力養成	ベネッセ駿台模試全国偏差値で50以上を目指す。また、共通テストで全国平均を上回る。	各種小テストによって基礎力を高める。 授業・各補習講習・特編授業を入試に対応できるように充実させる。 個別指導を積極的に行う。	B	
地 歴 公 民	基礎学力の定着・向上	定期考査・模擬試験等を節目として、定期的に課題を課しながら、授業において基礎内容の充実・定着に努める。	電子黒板を活用し、知識の定着をはかり、タブレットを利用した教員と生徒の双方向の授業に取り組む。	A	B
	大学進学に向けた実践力養成	模擬試験で偏差値50以上、大学入学共通テストで全国平均以上30%以上をめざす。	日々の授業・平日講習・夏期講習・特編授業等を通じて、大学受験に対する意識を向上させるとともに、問題演習により学力向上への意欲を高め、志望校に合格する実力を養成する。	B	
数 学	基礎学力の定着と向上	進路アンケートで数学の授業内容が理解できている生徒の割合を増やす。	授業内容を充実させ、基礎学力の定着と向上に努める。 長期休業中や放課後に補習を実施し、成績上位層および下位層のレベルアップに努める。	B	B
	大学進学に向けた実践力養成	入試問題を解く実践的な学力を身につけさせ、多くの生徒が大学入学共通テストにおいて、全国平均点以上の得点ができることをめざす。	大学入学共通テストの対策問題に取り組みせ、問題解決能力を磨く。直前には実践問題を繰り返し実施する。 授業や講習等で入試問題演習を行い、入試問題に対応できる学力を身につけさせる。	A	
理 科	理科学的な見方・考え方の醸成	自然現象の本質を見抜く能力、原理に基づいて論理的にかつ柔軟に思考する能力、自然現象の総合的な理解力と表現力の育成を図る。	教材開発や公開授業等を通して、授業改善と指導力の向上に努め、また、実験・観察を取り入れ理科学的な見方・考え方を深める。	B	B
	基礎学力及び大学受験のための実践力養成	様々な課題や問題を、科学的な見方・考え方によって解決できる実践力を育成する。	知識に重点を置くだけでなく、結果が導かれるまでのプロセスを重視した授業や実験を行う。授業や夏期・冬期などの補習、特編授業の問題演習を通して、生徒の実践力の養成を図る。	B	
保 健 体 育	自らの健康を管理し、改善・向上していく能力を養う	事例や統計資料等を出しながら、自らの健康について考えさせる。	社会における我が国が抱える健康問題・環境問題等の状況を具体的に把握させる。 生涯の各段階における健康・安全に関する課題への対応、保健・医療の制度や機関の適切な活用について理解を深める。	A	A
	基礎的な体力・筋力の維持・向上	授業を通して補強運動を実践させ、体力の維持・向上を意識させる。	休間を通して、各種目に応じた補強運動や準備運動を実施する。 体力向上の目安としてスポーツテストの各種目において県平均を上回るようにする。	B	
芸 術	豊かな情操の育成	表現や鑑賞に必要な知識と技能を身に付けさせる。「聴く力」「見る力」「感じ取る力」および「創る力」を育成する。 きめ細かな実技指導を展開し、学習の成果を上げる。	素材の見分け方や生かし方を学ぶとともに、それらを生かして創作・演奏・鑑賞などができるようにする。 ICTを活用するなど、質の高い作品に触れさせるとともに、資料や情報を提供し、生徒の意欲・興味を喚起する。また、作品の背景となる文化や歴史について理解を深める。 創作意図に基づいた作品作りに取り組む姿勢を養う。また発表の場を設け、互いに批評し合うなどの言語活動を行う。	A B A	A
	使える知識・技能の育成	朝学習、週末課題、各種テスト等の充実	授業に意欲的に取り組み、内容をよく理解させるよう、授業の改善を図る。 家庭学習を充実させるよう、適切な内容の課題を課し、小テストを計画的に行う。 1、2年生ではコミュニケーション能力の育成に向けた指導の一環としてパフォーマンステストを行う。	A	
	大学入試に向けた実践力の養成	3年11月(10月)、1・2年(1月)進研模試の偏差値60以上20%、50以上35%	平日補習や長期休業中の補習を通して実践力の伸長を図り、進路目標の達成を目指す。 大学入学共通テスト、個別大学入試問題の分析・研究を行い、日頃の授業に反映させる。	B	
英 語	新教育課程に基づく評価方法の確立	評価方法及び生徒へのフィードバック方法の確立	シラバス等を用いて、生徒に教材の取り扱い方、授業の進め方、観点別による評価指標等を周知させ、活動のすべてが学力の向上と評価につながることを意識させる。 パフォーマンステストについては、効果的なルーブリックを作成し、評価し、生徒が自ら継続的にパフォーマンスの向上に努力できるよう工夫する。	B B	B
	生活に必要な知識と技術を身につける	生活的自立を目指し、生活に必要な知識と技術を身につけさせる。	学習内容、実習内容を精選する。できる限り個別指導を取り入れる	B	
成 果	進路実現に向けた取組は成果が見られ、国公立大学合格者数は延べ人数で73人となった。昨年度実績を上回ったこと、昨年度と比べて1学級減の中での成果であることも評価材料とした。さらに数年ぶりに難関大学合格の増加もみられた。また一年遅れの創立百周年記念事業や三菱みらい育成財団による助成事業など内外に向けた魅力発信を精力的に行うことができた。				総合評価 A